

釧路湿原について知ろう

釧路には‘釧路湿原’という大きな湿原があります。ここでは、釧路湿原をテーマとした「財団法人北海道環境財団」の実践を紹介します。釧路湿原をテーマに教材をつくりたいと思っている先生方には必見です！！

■釧路湿原モデル

釧路湿原には、生息している植物が枯死・堆積することによってできた泥炭があります。この泥炭にはすぐれた保水能力があり、泥炭があるかないかで洪水の起きる頻度が大きく異なります。

図1は、釧路湿原のモデルです。緑の部分が泥炭であり、大量の雨（青い発砲スチロール球）が降っても、泥炭が保水している様子がよくわかります。



図1 釧路湿原のモデル



しかし、もし泥炭がなければどうなるのでしょうか？図2のモデルを見てください。大量の雨（青い発砲スチロール球）が川に流れ込み、大洪水が起きてしまいます。

このように泥炭は大きな役割を果たしていますが、最近では釧路湿原に土砂が流れ込み、泥炭の役割が果たせない箇所が見られるそうです。そのため、様々なところで自然再生事業が行われています。



図2 泥炭がないと…

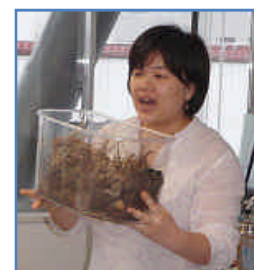


図3 釧路湿原の泥炭

■釧路湿原をテーマとした環境教育ガイドブック

釧路湿原をテーマとした環境教育の例として、環境教育ガイドブックも作成されています。ガイドブックには釧路湿原周辺の小・中学校による環境教育の実践例や、教材をつくる上で協力していただける団体・受け入れ機関・施設等の紹介なども掲載されています。釧路湿原をテーマに教材をつくってみようと考えている先生方には必見です。



図4 環境教育ガイドブック